

- ① 生まれた命の未来のために  
新生児・小児用ドクターカー始動  
・新任のご挨拶  
・病院からのお知らせ
- ② 名大病院臨床研修医のご紹介  
・診療科レポート「リハビリテーション科」  
・教えて！この言葉「MCI（軽度認知障害）」

- ・ナディック通信
- ・ボランティアさん募集
- ・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
- ・お詫びと訂正
- ・禁煙のお願い
- ・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。  
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます

## TOPICS ① 生まれた命の未来のために 新生児・小児用ドクターカー始動

名大病院総合周産期母子医療センターでは、赤ちゃんや子どもの救急搬送に活躍する新生児・小児用ドクターカーの運用を始めています。新生児医療の最前線に立つ医師の皆さんに、ドクターカー導入の経緯や効果などについて伺いました。



ドクターカー

### 新生児の救急搬送に活躍するドクターカー

総合周産期母子医療センター新生児部門は新生児集中治療室（NICU）を擁し、出生直後に救急搬送される新生児を年間150人ほど受け入れていきます。愛知県下では当院しか対応できない最重症児も多く、その治療は一刻を争います。

こうした救急搬送に重要な役目を果たすのが新生児・小児用ドクターカーです。これまで当院は新生児・小児用ドクターカーを所有しておらず、救急搬送要請時は名古屋市の消防に救急車を依頼し対応してきました。しかし、救急車が名大病院に到着後に、医師らが乗って現場に向かうため時間がかかる、救急車は新生児・小児用の医療機器を積んでおらず車内での治療が難しい場合がある、市外や県外に向かうときも名古屋市の救急車を使用するなど、さまざまな問題を抱えてきました。そのため「赤ちゃんのために、ぜひ当院専用のドクターカーを」と希望したところ、クラウドファンディングを通じてご支援により、新生児・小児用ドクターカーを導入することができました。

### 高度な医療機器を搭載できる、動くNICU

今回導入したドクターカーは、新生児搬送用保育器のみならず、最重症児に対応できる特別な人工呼吸器や一酸化窒素治療用の医療機器なども搭載でき、それらを安全に搬入できるリフトも備えています。いわば「ミニNICU」とも呼べる環境を整えたことで、車内で治療を継続しながら、より迅速かつ安全に赤ちゃんを搬送できるようになりました。2021年4月の運用開始後は、ドクターカーとドライバーが24時間体制で院内に待機し、要請があれば、直ちに医師と看護師が出勤しています。

これまでに呼吸障害や重症黄疸などの赤ちゃんの搬送を行っています。迅速に対応でき、かつ移動中も処置や

治療を行えるため、安定した状態を保ちながら入院後の治療に繋げることができています。また、産科開業医から要請をいただいた赤ちゃんを、当院のドクターカーを用いて近隣のNICUへ送るといふ三角搬送もスムーズに行うことができ、医療機関同士の連携にも活躍しています。

### その子の未来のために最善をつくしたい

当院の使命は高度医療・先端医療であり、重症の新生児の受け入れを支えるドクターカーは、その責任を果たす一助となるものと考えます。同時に1つ大切なことは、地域に根ざした病院として、近隣の分娩取扱施設の要請やニーズにお応えすることです。今後はドクターカーを活用して1次・2次・3次医療のすべてを網羅することで、皆さまからいただいたご支援を地域の新生児医療に還元したいと思っています。

出産はご家族にとって一番幸せな瞬間であり、赤ちゃんは未来を持って生まれてくる存在です。一方で残念ながら、生まれた瞬間から治療が必要な赤ちゃんもいます。こうしたすべての赤ちゃんが元気に家に帰れるように、その子の未来のために、当院はこれからも最善を尽くしていきます。



ドクターカー内部

## 病院からの お知らせ

### 放射線部における検査・治療室の装飾 ～検査・治療室をより優しい医療のシンボルに～

放射線検査・治療室内は閉鎖的な環境のため、患者さんやそのご家族は、不安や緊張を伴いながら検査・治療を受けることがあります。放射線部では、このような気持ちを少しでも和らげたいだけのために、一部の検査・治療室に自然をイメージした装飾を施しました。

この取り組みは2年前のクラウドファンディングから始まり、新装飾の導入に合わせて部屋数が増えています。室内や装飾の外観は親しみのあるデザインですが、これらの装置は最先端医療に対応した最新技術を用いた検査・治療に対応しています。



MRI 検査室



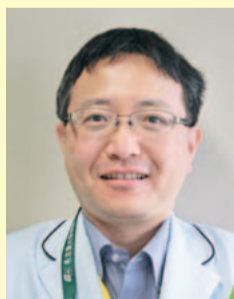
PET 検査室

## 新任のご挨拶

放射線科病院教授 石原 俊一

この度、令和3年7月1日付で名古屋大学医学部附属病院放射線科病院教授を拝命いたしました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

放射線科は、画像診断部門と放射線治療部門に分かれ、私は放射線治療部門を担当します。対象疾患の大部分はがんなどの悪性疾患です。年齢は幼児から100歳以上の超高齢者と幅広く、部位は頭のお腹からつま先まで全身あらゆる部位が対象となります。



多職種が協力し、それぞれの患者さんに最適な医療を提供していきたいと思っております。今後ともご支援・ご指導を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

特集 TOPICS 2

# 名大病院 臨床研修医のご紹介

名大病院では現在、医科歯科合わせて45名の研修医が医師としての道を歩み始めています。本シリーズでは隔回掲載で、医師を目指して日々取り組む研修医の、フレッシュな意気込みをご紹介します。

一人前を目指して 日々勉強中!



## 伊藤 将 (医科研修医)

春風が舞う季節に桜並木をくぐると、そこには2年間を共にする仲間がいました。お互いに緊張した面持ちで挨拶も程々に、我々の研修医生活が始まりました。

外科志望である私は、最初の2ヶ月を消化器外科で過ごしました。慣れない病棟業務の合間を縫って手術室に向かう日々が始まりました。手術中は常に心地よい静寂に包まれ、チーム一丸となり患者さんを救うという一つの目標を成し遂げる達成感は、何ものにも代え難い喜びであります。

## 吉澤 翼 (歯科研修医)

私は現在、歯科口腔外科外来にて日々研修に励んでいます。臨床研修医となり肌で感じていることは、国家試験における紙の上の知識よりも、実際の臨床はもっと複雑で、単純ではないということです。現在の生きた臨床の知識を吸収することは、国家試験のための勉強よりも面白く、勉強することが楽しくて仕方ありません。今後も初心を忘れずに、限られた時間の研修医生活を謳歌し、信頼される口腔外科医になれるように日々精進いたします。



## 安藤 拓朗 (医科研修医)

私は現在病理部にて、悪性腫瘍を中心に各種診断業務に関わっています。

名大病院での研修では、診療における考え方の基礎を病理診断部に限らず各科で学ぶことができました。この基礎が自分の中にあることで、問診事柄や、行うべき診察・検査などを合理的に判断でき、疾患個別の知識を上乗せすることで、診断から治療まで切れ目のない診療力を身に付けられると思います。

今後も研鑽を怠らず、自分の目指す形で、患者さんの幸福のための医療に貢献できるように励みます。



教えて!

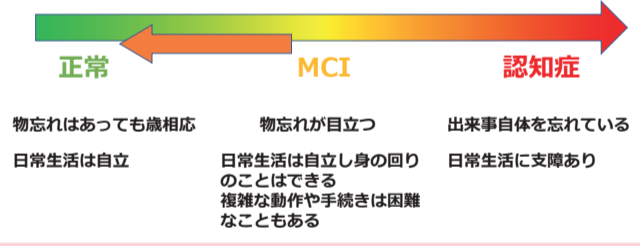
## この言葉 MCI (軽度認知障害)

脳神経内科長 勝野 雅典

2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると言われています。頭のCTやMRIを撮影すると、全く別の症状で行った検査でも「認知症ではないですか?」と聞かれることがあり、認知症を心配される方が多いことを実感します。認知症はあるとき突然発症するわけではありません。例えば、「物忘れ」の原因で一番多いアルツハイマー型認知症では、認知症になる20~30年前から少しずつ脳の変化が起こり始めます。

MCI (軽度認知障害) は認知症の一手前の状態です。軽い物忘れの症状が出始めたけれど身の回りのことは自分でできる、そんな方々です。MCIと診断された方の10%程度が、1年後には認知症になると言われていますが、反対に一度MCIと診断されてもまた正常に戻る方もおられます。認知症の発症には、持病や生活習慣など様々な要因が影響します。CTやMRIで脳が縮んでいても認知症を発症しない方もいらっしゃいます。

認知症にならない方法は研究段階ですが、認知症の危険因子は知られていますので、MCIの段階で見つけることで、認知症の発症を予防できる可能性もあります。「最近物忘れが増えたな」と感じたら、認知機能検査を受けてみてもよいかも知れません。



## 診療科レポート「リハビリテーション科」

リハビリテーション科長 西田 佳弘

リハビリテーション科は、あらゆる病気によって生じた患者さんの障害に対して、機能を回復させ、障害を克服していくことをお手伝いをする診療科です。例えば買い物をするという日常でありふれた活動を考えるという日常で、歩行障害(整形外科)、呼吸器内科、視力が悪い(眼科)、耳が遠い(耳鼻科)、夕食のメニューを考えられない(脳神経外科・内科・精神科)、手に取る手が届かない(手の外科)など、どの一つに障害があっても買えない物は難しくなります。リハビリテーション科は各科の診療医と連携を取りながら、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師、医療ソーシャルワーカーと医療チームで患者さんに向き合い、買えるようにすることを目指します。



新生児を診察するリハビリテーション科医師と療法士

後の患者さんなどに対するリハビリテーションを実施します。一方、希少疾患・がんと呼ばれるまれな病気に悩まされている患者さんが当院に多く来られます。希少な疾患もすべてを合わせると人口の7%程度に相当するとも言われています。今後は希少疾患に対するリハビリテーション診療の重要性、及び当院が果たすべき役割を考えながら、リハビリテーション診療を充実させるよう努力していきます。

## ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



★ ボランティアホームページ <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/> 「名大病院 ボランティア」で検索♪

## Nagoya Disease Information Center ナディック通信 ナディックの利用休止について

患者情報センター(広場ナディック)は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用を引き続き休止しています。

それに伴い、毎月開催していましたが教室(手作り、ちぎり絵、折り紙)は当面の間休止。患者の集い、認知症サロンなどの患者さん向けのイベントについても次回の開催予定は未定です。

肝臓病教室についてはオンライン(動画配信)で再開する事になりましたので、詳しくは病院もしくは肝疾患診療連携拠点病院のホームページ(<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kyoten/liver/>)でご確認下さい。がん患者さん向けの「ウィッグ・頭皮ケア相談」については外来棟1階「地域連携・患者相談センター」にてがん相談員が随時対応しております。

(問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663)



肝疾患診療連携拠点病院 ホームページ

## 禁煙のお願い



患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

## 特定基金 医学部附属病院 支援事業へのご協力をお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。 URL: <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます!



(お詫びと訂正) かわらばん121号に掲載しました記事「教えて! この言葉 (ドナーとレシピエント)」におきまして、3段落目の記載に誤りがありましたので、深くお詫び申し上げますとともに下記のとおりに訂正させていただきます。

記

- 【誤】 一方、心臓と肝臓は脳死下での移植が必要です。平成25年内閣府が実施した「臓器移植に関する世論調査」によると、「脳死下で臓器提供したい」～
- 【正】 一方、心臓と肝臓は脳死下での移植が必要です。平成25年内閣府が実施した「臓器移植に関する世論調査」によると、「脳死下で臓器提供したい」～

以上